

令和6年度 豊伊小学校学校評価シート（まとめ）

学校教育目標

ふるさとを愛し 心豊かに たくましく生き抜く豊伊の子の育成

◎めざす学校像

○子どもが「明日が楽しみ」と思う学校 ○保護者が「安心して通わせられる」と思う学校
○地域が「一緒に子育てしたい」と思う学校

◎めざす子ども像

○学び合う子：伝え合い、学び合う子 ○助け合う子：多様な他者を尊重し、助け合う子
○元気な子：自律的で、心身ともに元気な子
○「たれもが担任」という意識で取り組む教職員 ○学び合い・高め合う教職員

◎めざす教職員像

○「あこがれ」を創り育む教職員

評価

A：達成度
B：改善を要
C：早急に改善

そう

思わない

金で3以上A 金で2.5以下C

豊南市立豊伊小学校

評価計画		アンケート				自己評価		学校関係者評価（学校評議員）	
項目	重点	職員	児童	家庭	評価	結果	改善案	評価ABC	コメント
1	・「深い学び」の実現を目指した教育活動の工夫	3.5	3.3	2.7	B	○地域の「人・もの・こと」を学習材として探究する「総合的な学習の時間」や「生活科」などを中心としたふるさと教育を実施することができ、児童も地域への関心が高まった。 ○「めあて」の設定、「まとめ」の工夫、「振り返り」の学習過程を大切にしたい授業づくりが概ねできた。	○引き続き、地域の学習材を活かした学びを充実させ、より一層児童の思いや願いに沿った学びになるように単元や授業づくりを工夫する。 ○どの児童も授業のねらいを達成できるように、対話的な学習活動を取り入れながら、深い学びにつなげていく。		○めあて、まとめ、ふりかえりが自学でもできており、きちんと定着して成果を感じている。 ○タイピング力向上にこだわらず、楽しくやっていけばいいと思う。 ○中学校でも技能差の問題はあるようだ。授業の進め方に工夫をしていけば、ICT利用は進むだろうと思う。 ○習得に差が出れば、就職の差別化も起きるかもしれない。
2	・ICT機器の効果的活用	3.7	3.6	2.6	B	○朝学習などのドリルの学習の際、キニヤンやeライブラリなどのタブレット利用が進んだ。 ●タイピングの技能には個人差が大きい。 ●授業中、効果的にICT機器を活用する機会が前年度よりも増加してきているが、まだ手探りの状態である。	○タブレットを使ったドリルの学習等を継続し、一人一人に必要な基礎的な力を高めていく。 ○授業等での効果的活用方法について、職員同士で情報交換を行ったり、研修の機会を設けたりしながら、実践していく。		○個人思考やグループ思考をうまく取り入れていると思つた。グループ協議の場を大切にしていってほしい。大勢の前ではしゃぐべなくても、少人数なら大丈夫な子もいると思うので。
3	・特別支援教育・キャリア教育の考え方を生かした授業改善	3.6	3.5	2.8	B	○対象の児童に対して個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成をした。 ○担任より新たにアがった支援が必要な児童について校内支援委員会を開き、教育相談に繋げることができた。 ○校内支援委員会を定期的に開催することによって、全職員の共通理解を得て支援を必要とする児童への対応ができるようになった。	○個々の特別な教育的ニーズに応じた支援や配慮ができるように、引き続き児童の実態を十分に観察し、環境の整備や支援方法の工夫、改善等を行う。 ○校内支援委員会を年度当初より定期的に開催する。 ○支援が必要な児童について全教職員で共通理解できる機会を生徒指導部とも連携し年度当初より計画的に設ける。		
4	・一人一人が大切にされる集団づくり	3.1	3.7	3.2	A	○生活目標を提示して、クラスごとに目標を定めることで児童が生活面でのめあてを意識しやすくなった。 ○児童会活動（総務委員会）で、あいさつ運動や人権意識を高める活動（ほっかほのの木など）を行い、児童の意識を高める取組を行った。 ○アンケートOUの結果を教職員全体で検討して、児童の支援に活かすようにした。	○生活目標などの取組が、形式的にならないよう、児童が考えたりふりかえったりする機会をつづけていく。 ○今後も継続して児童の様子を観察し、早期対応、組織的な対応ができるようにしていく。		○6の質問についてだが、子どもたちは家の人に相談するのが一番だと考えているのかもしれない。保護者からは、去年よりも子どものことを担任に相談しやすくなったと話している。 ○いやだと思ったことは、親に言うのではないだろうか。学校としてはこれからも、話しやすい、聞いてもらいやすい環境は作っておいてもらいたい。
5	・「ちがいが」のよさに気付くための理解教育の推進	3.8	3.7	3.1	A	○夏休み期間を利用して、校内の支援が必要な児童についての情報交換及び特性について情報交換ができた。また、本年度は、これにサポートティーチャーにも参加してもらい、現在行われている支援内容についても共通理解することができた。 ○保護者と高学年児童が一緒に参加する形で、性の多様性に関する研修会を実施した。また各学年でも性の多様性に関する授業実践を行い、児童の意識を高めることにつながった。	○今後も、様々な機会を通して、個々の児童の実態把握と望ましい支援方法について情報交換や研修をする機会を作りたいと考える。 ○人権意識を高めるための授業実践や研修を、今年度の取組をもとにさらに工夫していく。		
6	・いじめのない学校をめざした取組の推進	3.3	2.9	3.0	B	○児童からの訴えや保護者からの相談があった場合、アンケート結果に気づくことがあった場合、早期に支援会議を行い組織的に対応するようにした。 ●評価結果から、十分に困りごとを伝えられていないと感じている児童もいたと考えられる。 ○職員会議等の時間を活用して、児童の実態を共有するための時間を設けるようにした。	○日常的なかかわりの中で、児童が困りごとを担任やまわりの職員に相談しやすい環境をつくり、早期発見早期対応ができるようにしていく。 ○校内で児童の情報を共有し、多くの目で支えていけるようにしていく。		
7	・「早ね・早おき・朝ごはん」の徹底	3.8	3.6	3.0	A	○元氣アップカードの取組があるので、普段意識できていない点も意識しようとする児童が多い。 ●児童と比べると、保護者の評価が低くなっている。 ●メディアの利用に関する部分は、得点が低くなる傾向がある。	○元氣アップカードの取組は、次年度も保護者と連携して、継続した取組となるようにしていく。また、事前に児童の意識が高まるよう、大切にしたい点を明確にして指導していく。 ○ICT活用の担当者とも連携して、児童がメディア利用を考える機会を設けたり、デジタルシズンシップ教育を進めたりしていく。		○今の子は忙しいが、小さい頃に本に触れることは大切なことである。読解力を伸ばすことにもつながる。 ○読書を宿題として出すと、少しはうちどくにつながるのではないかと。 ○早寝早起きは家庭、親の生活リズムが違うので揃えていくことが難しい。休みの日も上手に使うことがカギだと思う。子どもを外に引っ張り出せるよう、地域として考えていきたい。
8	・体力向上の取組	3.8	3.8	3.2	A	●走ろう週間については、児童会活動での取り組みもあり少しずつ活動に積極的に参加する児童が増えてきているが、全体的には数が少ない。 ○秋のロードレース大会では春の記録を更新できた児童も多く、児童にとって自身の体力の伸びを実感できる機会となった。	○走ろう週間や二年回のロードレース大会など、子どもたちが走った成果や持久力の伸びを実感できる取り組みを継続し、児童の体力づくりへの意欲の向上を図る。		○早寝は無理でも、学校に間に合うように早起きはしてほしいと言っている。 ○本よりネットの方が便利なので、本離れが進んでいるのかも。調べ物をするのに、本を使うことが少なくなった。
9	・家庭学習・うち読の習慣化	3.2	3.2	2.3	B	●家庭学習も家庭も、児童と家庭の評価に差がある。 ●家庭学習への取り組みは個人差が大きい。学年×10分の家庭学習時間や内容が十分とは言えない児童も多い。 ●委員会活動をはじめ、学校では読書活動を推進し、児童も楽しんで読書をしているが、家庭での読書習慣は定着していない。	○配布している「家庭学習の手引き」を参考にし、家庭学習の仕方について、適宜、共通理解をはかる。 ○よい自学（モデル）を示すなどしながら、自学の仕方についても指導をしていく。 ○学校で読書の時間を設けたり、国語の単元に応じた並行読書を推奨したりして、本への興味・関心が広がるように支援し、家庭での読書習慣にもつながるようにする。		○文章題を読み解けていない、やはり本を読んでもいないことが影響していると思う。このような状況を保護者にも訴えかけ、宣伝していくとよい。
10	・保小中との連携	3.8		3.0	A	○継続して取り組んでいる授業研修会や合同研修会は、意義あるものになっていると感じる。無理なく継続して続けていくことが大切。 ●保護者の評価がそれほど高くないことから、取組の実際をもっとPRしてもよいのかと思う。	○今年度取り組んできたことを継続していく。 ○保小中との連携については、ホームページ等を活用してPRできるとよい。		○PRはどんだんした方がよい。 ○学校便りにホームページのQRコードを貼り付けておけば、普段ホームページを見ない人も見に来てくれるのでは。○ホームページによって、地域にPRする機会が増えると思う。 ○スマホですぐわかるようにするのも手だと思う。 ○地域とのつながりは学校のおかげで成り立っている。子どもとのつながりが地域を盛り上げている。
11	・家庭との連携	3.9		3.0	A	○様々な便りやホームページによる情報発信は、十分できているのではないかと思う。 ●ホームページの見やすさについては、業者の介入が必要。	○紙ベースの便り、メール配信、ホームページ等、それぞれのよさを活かして伝わりやすい使い分けを進める。 ○どの部分が見にくいのかは、今後PTA役員を中心に聞き取りをしてみる。		○地域の祭りに子どもがいるからにぎやかになるし、そこに保護者がついてくるから来場数も増える。地域に子どもを早く送り出してもらい、感謝している。 ○通学路の安全点検にも協力していく。
12	・地域との連携	3.8	3.4	3.2	A	○地域CNの協力により計画的に進められている。 ○生活科や総合的な学習の時間、社会科等の学習を使って、地域への意識や意欲を高めるようにした。	○予算を検討しながら、地域に出かける機会を増やしていく。 ○年度当初に地域に出かける学習のカリキュラムを見直し、学習がより深まるようにする。 ○開校に関わるようなゲストティーチャーの計画を早め早めに立てていく。 ○年度当初に、担任とコーディネーターが年間計画について協議する時間を確保にすると。		
13	・教職員・教育活動の質の向上、教育環境の整備	3.2	3.7	3.0	A	○粘り強く要望を続けた結果、体育館屋根の修理をしてもらうことができた。 ○職員研修等で伝達したことを各学級で確実に指導してもらい、児童が安心して過ごすことができた。 ○避難訓練によって、危機に備えることができた。	○今年度同様、訴えがあったとき、先手先手で取組を進め、子どもが安心して通えるように教員同士の情報交換を密にする。 ○計画的な安全点検に努める。		